三重大学教育学部附属特別支援学校　作業学習

すべての人に笑顔を届けるイチゴ高設栽培

三重大学教育学部附属特別支援学校の概要

■校種　：知的障害特別支援学校

■在籍者数：小学部18名　中学部14名　高等部20名　計　52名

■教育目標：「社会の中で自分らしくたくましく生きる子どもの育成」

障害による学習・生活上の困難さを解消するための指導・支援を図りながら、職業的自立に向けた資質や能力の育成を目指している。

キャリア教育・職業教育の推進

- 自らの将来に目標や希望を持つ
- 未知のことに興味・関心を持つ
- 実社会とつながるリアルな作業学習
- チャレンジ精神 コミュニケーション力 社会性等を育成

体験的な学習を中心に、一人一人の可能性を開花させる教育活動の展開

高等部のキャリア教育・職業教育（作業学習）

農園芸

- 1000㎡の農場で１年間を通して、季節ごとの野菜作りを行い、出荷する
- 生産物：ジャガイモ、玉ねぎ、大根、小松菜　等

印刷デザイン

- 専用プリンターを活用し、綿生地にオリジナルデザインを印刷、製品化する
- 製品：Tシャツ、トートバック、クッション　等

紙工芸

- 牛乳パックのフィルムをはがし、紙すきによる再利用製品づくり
- 製品：はがき、ラベル、メモ帳，祝い箸袋　等

新たな取組として、農園芸では「イチゴの高設栽培」への挑戦

・艶々とした外観と爽やかな甘さで多くの方に好まれているイチゴに着目

・三重県が開発し2010年に品種登録されたイチゴ「かおりの」に対して生産許諾申請を提出し、認可されたものを生産。

・令和6年９月から自らが夢や希望を持ちながら取り組める新たな農産物として「附属特支イチゴ」のブランド化への挑戦

★　イチゴ栽培の価値　★

（１）イチゴの特徴

・ビタミンCを多く含み（みかんの2倍）、 疲労回復や肌荒れ抑止等の美容と健康の保持に期待できる

・ポリフェノールの一種であるアントシアニンも多く、視力改善や眼精疲労の予防に期待できる

（２）「附属特支イチゴ」のブランド化

・市場やスーパーマーケット等への出荷、社会に広く流通させる

・地域の保育園や福祉事業所等を対象としたイチゴ狩りなどのイベントを企画等

イチゴ高設置栽培の利点

★　高設栽培とは、地面から1mほどの高さに培地を設置して栽培する方法である。

果実が宙に浮いているため土壌細菌による感染が極めて少ない。

苗に対する病気のリスクが少ない

楽な姿勢で栽培できる

身体的負荷を軽減でき、生育状況や収穫時の確認などを適切に行うことが可能。

安定した栽培が実現できる

養液の濃度や量、照明による日照管理、室温管理などを専用機器を使用して、生育管理を行う。

持続可能な栽培

JA津安芸の指導者によりシステムから栽培方法に至るまでトータル的にサポートを受けられる

イチゴの栽培工程と収穫見込み

（１）栽培時期

9月頃に花芽分化させた苗を定植して、
１１月中旬～翌年５月末まで６か月間収穫する。

品目＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
イチゴ栽培		育苗管理・土壌管理				定植	-------	収　穫						

（２）収穫量

出芽した枝から約１０個の粒が実り、その後次の新たな枝が出る。
これを９月～翌年６月までの間に４～５回繰り返すため目安として
一株から４０粒～５０粒の実が取れる。

「かおりの」は、果肉はかためで、甘味が強く酸味はおだやか。優れた香りを有している。

▼　10個×800株×5周期　＝　40,000個　　**約　6,600個/月**

イチゴの高設栽培の今後の予定

（１）市場への出荷

1月の第2週から中央卸売市場に出荷し、市場に「附属特支イチゴ」を流通させることで、自分たちの働きが社会の一役を担っていることを認識させ、努力の結果が収益になることを実感させる（キャリア教育のねらい）

（２）地域貢献への取組

地域の幼稚園・保育園や福祉事業所等を対象としたイチゴ狩り等のイベントを企画し、「附属特支イチゴ」の魅力を発信するとともに、感動と喜びを分かち合う

- 校内での「イチゴ狩り」
- 附属小学校の生活科や理科の授業支援（観察の場の提供）
- 附属幼稚園の園児や地域の子どもたちを招いた「イチゴ狩り」
- 難病と闘う子どもたちへ笑顔と希望を込め、「イチゴの提供」